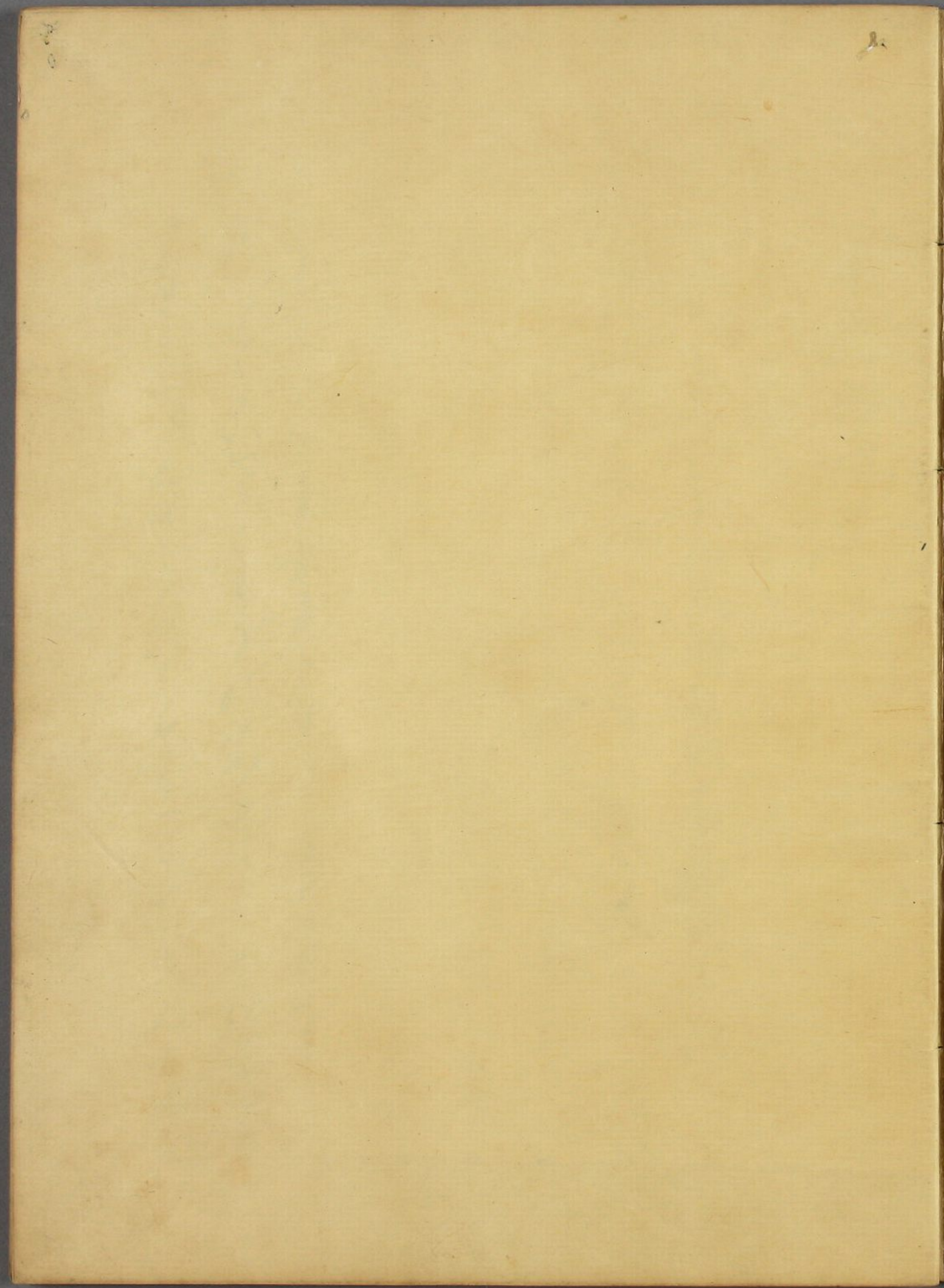




深花物語
才古三吉定





棠花物語才七三

海へ入

くろく九月廿二日卯白殿高陽院とれく
海へ入るる方始く行幸御破之入此の事
をいふに海へ入るる事と云ふに
みよと云ふ所と云ふ事と云ふ事と云ふ事
ハ冷泉院帝極殿と云ふ事と云ふ事と云ふ事
之の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
見よと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事



しほくゆきほぬ日ありし
し月十九日約くしき
つる人ふりしりし
しゆしん大座子霞殿
以香しきひりし
以薬しきひりし
行てまふりし
し奏しき
氣うてありし
しうしき

しほくゆきほぬ日ありし
し月十九日約くしき
つる人ふりしりし
しゆしん大座子霞殿
以香しきひりし
以薬しきひりし
行てまふりし
し奏しき
氣うてありし
しうしき

こゆれをばねぬくし縁のこよひわさひわり
てわくぬがふこらわぬこよわさのさし
くりりちく東の月けもなうちうてしちり
すしゆさくれ上なき及上人氣うけはるひさし
菊さくしこりかたうとを野うれむさ
さしゆかきしとてさるるん事いばあゆ
こせりしこちゆかきゆいししゆれさや
あひまよなりうて花のさひもわささしちり
しゆれつろこわさしゆれこ人なりしちゆぬ
水うれとさきとさうさしてあまぬれし

ちらうのさゆれわささしゆいしちゆさきゆ
かきりたり松れうさしゆいしとわささき
こよはよあゆさしゆさきゆぬ

岡白殿

わやゆれさしゆさきゆかきゆぬ
こよはよあゆさしゆさきゆぬ

申文あま

あらゆさしゆさきゆかきゆぬ
かきりたり松れうさしゆいしとわささき

岡白殿

皇居文相書

いかに御事なすまはるるに
ちかき御事なすまはるるに

右長持書

御事なすまはるるに
いかに御事なすまはるるに

右大弁

つれづれと御事なすまはるるに
ちかき御事なすまはるるに

源守書

いかに御事なすまはるるに
ちかき御事なすまはるるに

周旋公中書

いかに御事なすまはるるに
ちかき御事なすまはるるに

右公中書

いかに御事なすまはるるに
ちかき御事なすまはるるに

弁如書

いかに御事なすまはるるに
ちかき御事なすまはるるに

今いよいよのちもわたりん
えううんにかうらうし
とのねとすらん殿も大細を
るまふしうりや

栄光御終才女四

わがね

うらうして万寿二年正月はあぬら
ともひさくふねしうりよ。枇杷殿
一之殿をたぬらんそるむ行中
はまはちんしんかひしれし
いそらうあしうあしう
ありしうのねとすらん二日
容とてふ日也。ははし
日九候しれらうしうわ

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in three vertical lines on the right page of the manuscript. The characters are fluid and interconnected, characteristic of a cursive hand. The first line contains approximately 12 characters, the second line contains about 10, and the third line contains about 8. The overall appearance is that of a personal or working manuscript rather than a formal document.

